

『源氏物語』の心を読む

～御法・幻の巻～

開講計画 全11回／各90分

回	日付	曜日	10:30～12:00
1	9/16	水	紫の上、法華経千部の供養
2	9/30	水	死を覚悟した紫の上、人々と別れの挨拶をする
3	10/14	水	紫の上、源氏、中宮と唱和して死す
4	10/28	水	紫の上の葬送
5	11/11	水	源氏、人々の弔問をうけ、悲しみにくれながら心静かに勤行する
6	11/25	水	傷心の源氏、女房達と話す
7	12/9	水	悲しみにくれ、泣いてばかりの源氏
8	12/23	水	源氏、女三の宮、明石の君を訪れるが、紫の上が面影に浮かんで恋しい
9	1/13	水	源氏、明石の君と夜ふけるまで語り明かしながら、昔のように泊まらない
10	1/27	水	五月雨の夜、夕霧、源氏を見舞う
11	2/10	水	紫の上の一周忌を済ませ、年末、源氏、紫の上の手紙を焼き、出家の準備をする

受講料 18,500円(教材費別)

定員 35名

紫の上は、人生に失望して命つき、 残された源氏の泣きながらの日々

病がちの紫の上が、とうとう亡くなる「御法」の巻と、紫の上の死の翌年の、源氏の、悲しみに明け暮れる一年間を描く「幻」の巻です。

紫の上は、正妻の座を女三の宮に譲って以来、病いがちです。出家を許されない紫の上は、密かに法華経千部供養を、二条院で主催し、明石の御方、花散里に別れのご挨拶をします。明石の中宮も、二条院に退出し、紫の上は孫の匂宮に遺言し、源氏と中宮とに唱和し、中宮に手を取られて、消えてゆく露のように亡くなります。

春の好きな、紫の上の死の翌年の、傷心の源氏の日々が語られます。源氏は、女房たちと語り、女三の宮や明石の御方や、花散里に語り、過ぎ去った昔の思い出がつかみません。紫の上の一周忌を済ませ、自身の出家の準備をし、紫の上の手紙を破り、焼かせます。

講
師

本学名誉教授

うめの こ

梅野 きみ子

テキスト・教材

- ①宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 御法』
編者 清水好子 新典社 770円(税込)
- ②宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 幻』
編者 鈴木一雄 新典社 715円(税込)
- ③仮名変体集 編者 伊地知鐵男 新典社 385円(税込)

受講上の注意、受講日に持参するもの等

- ①②は必須、③は任意。初回、教室にてプリントを配布し、同時にテキストの販売をします。講座申込み時に注文して下さい。テキスト以外に、他の本の持ち込みは自由です。